

「ヘブライ館2」で次のように紹介されています。

●アメリカの全人口のうちユダヤ系は3%足らずの約600万人とされる。数字の上では大した勢力ではないが、彼らはニューヨーク、シカゴ、ロサンゼルスといった大都市の周辺に集中的に住み、選挙にあたっては特定の候補者に集中豪雨的に投票する。こうした地域は全米の政治動向を左右するので、そこからユダヤ票の威力が生まれてくるわけだ。

これはユダヤ票の「地すべり効果」とも呼ばれている。ユダヤ系市民の政治意識は高く、したがって彼らの投票率は他のエスニック集団に比べて格段に高い。その団結力も強い。それが「地すべり効果」を生むのである。

●在米ユダヤ勢力を政治的に指揮しているのは、「アメリカ・イスラエル広報委員会（AIPAC）」である。

ワシントンの国会議事堂から歩いて数分のところのビルに事務所をかまえている。AIPACは、ワシントンで最強のロビー団体であり、イスラエルに有利な動きを促進し、不利な動きをつぶすため、議会や政府に強力に働きかけることを任務としており、実質的にはイスラエルの「第2外務省」の役割を演じている（会員は現在5万人を超える）。



「AIPAC」のシンボルマーク

●もしアメリカの政治家が親アラブ的発言をしようものなら、たちまちAIPACに反ユダヤ主義のレッテルを貼られ、ナチス呼ばわりをされ、政治的生命を葬り去られてしまう。1984年の選挙ではチャールズ・パーシー上院外交委員長がこの憂き目にあっており、政治家にとってははなはだ恐ろしいお目付け役である。